

東京日本語ボランティア・ネットワーク

日本語 NETWORK NEWS

〈第4号〉

〒162 東京都新宿区神楽河岸1-1 東京ボランティアセンター気付 TEL 03-3235-1171



二十一世紀を目指して

とし
代表 中田 紀子

世界中の人々と真の心を通わせるための手段として、言葉の占める割合は非常に大きいものだと思います。私達はその必要性を認め、大・小のグループがお互いの情報交換をきめ細かく行うことによって、内容豊かな強いネットワークに成長してゆくのではないかと信じています。

ボランティア組織においても、参加するスタッフの人材はさまざまです。一年間、苦楽を共にしてきて、各人がそれぞれの分野において専門家、もしくはそれに近い力を持っていて、世にいうところのボランティアの責任の所在をあえて問うまでもないということを実感しました。任せたからには干渉しない、否、できないという程の毅然としたものを感じたからです。

本ネットワークの充実と発展を願うにあたって、次のことばを意識して代表を務めてゆきたいと思います。「和やかに」「楽しく」「許容の気持ちを広く」「協調の心をもつ」。平凡かつありきたりの言葉かもしれませんが、私は重要なことだと考えています。組織の運営も効率よく簡略化し、多くの意見の中から生まれたテーマを大切に、また、どんな小さな意見・提案・要望にもとりこぼしのないよう心がけてゆくつもりです。今後の活動もネットワークの特性を活かし、上昇気流にうまく乗れるように、また素晴らしい力を持ったメンバーの知識と能力を軽んずることなく、全国の日本語ボランティア・ネットワークのモデルを目指して行きたいと思います。

東京日本語ボランティア・ネットワークで働ける喜び

事務局長 林川 玲子

昨年に引き続き今年も事務局で働かせていただくことになりました。よろしくお願ひ致します。

「ぼらんていあ・めっせ・東京'93」の分科会に集まった230人の熱気を起爆剤に、ロケットのように飛び出した東京日本語ボランティア・ネットワークは、どうにか軌道にのることができ、二年目を迎えました。一年目はかなり要領の悪い動きも致しましたが、社会が要求していることをひしひしと感じて、とにかく前進あるのみでした。しかしながら、長年日本語ボランティアのネットワークを作りたいと動き回っていた私にとっては、ほんとうに「機が熟す」という言葉の意味を実感できた年でした。また個人の力ではどうしようもないことが、ネットワークを組むことによって実現していくのを見て、そこに関わる者の責任の重さを痛感させられました。けれど何としても、自分の夢が叶ったのですからこんなにうれしいことはありません。東京日本語ボランティア・ネットワークが、その網をもっと広げ、さらに充実するように、微力ながら力を尽くしたいと思っています。



第1回運営委員会のご報告

2月8日(水)午後6時より第1回の運営委員会を開催しました。今回は初めての運営委員会ということもあり、運営委員の顔合わせを兼ねて以下の事項について話し合いました。

◆95年の活動計画について

年間計画案の説明と講習会及び交流会の実施について

◆企画提案書・提言書について

*ネットワークの活動に皆さんのご意見やアイデアを反映させるために、企画提案書と提言書の用紙を作成しました。ネットワーク活動をより活性化させるためのご提案やご意見などをお書きの上、事務局まで提出してください。

◆次回の運営委員会の開催について

3月9日(木)午後6時～8時/東京ボランティアセンター 学習室A

*どなたでも自由に傍聴していただけますので、興味のある方はぜひご参加ください。

運営委員の方々から活動についてメッセージをいただきましたのでご紹介します。(敬称略)

甲斐 武子/日本語ボランティア「ともだち」

「ともだち」は日本語を教える活動を始めて7年になりますが、学習以外のことで相談をもちかけられて、その対応に悩むこともあります。これを機会に、他のグループの様子や問題が生じたときにはネットワークを通じてお知恵を拝借させていただきたいと思っています。

窪川 雄一/日本語地球交流会

当ネットワークが発足して2年目を迎え、今後の活動が期待されている折での運営委員になり、重責を感じています。私たちのような青少年を中心としている日本語教室のニーズを把握し、これからの日本語教育の担い手として若さで力を尽くしたいと思います。

柳沢 好昭/協力会員(国立国語研究所日本語教育センター)

ニュースレターに掲載された新代表の文章に「多くの意見の中から生まれたテーマを大切に」というのがあります。これを読み、連絡会やさまざまな活動の中で生まれた声を具現化することがわたしの役目と思い、少々気が重くなっています。会員の方々、ご教示をお願いします。

前田 恭子/協力会員(ニュースレター編集長)

ひとりの力ではできないことをグループでは実現できるように、一団体ではできないことを実現するのがネットワーク活動の意義。第一の役割は「情報の共有化」による活動の活性化だと思います。この情報に関して私の立場からお役に立つことができればと考えています。

『ぼらんていあ・めっせ』に参加して

東京社会福祉協議会と東京ボランティア・センターの主催による『ボランティア・メッセ・東京』に当ネットワークも参加しました。2月11日(土)のフォーラムCの分科会では当ネットワークの事例報告を、また2月12日(日)にはボランティア活動相談コーナーに参加。団体会員としてはボランティア入門講座4で「小平日本語クラブ」が事例報告を、紹介展示コーナーでは「日本語地球交流会」がパネル展示をしました。

ボランティア活動相談コーナーでは「ボランティア日本語教室ガイド」の販売や入会受付、日本語ボランティアについての質問や相談に応じました。ボランティアへの関心が高まる中で今回の『めっせ』も多くの参加者でにぎわいましたが、中でも阪神大震災の現地報告会が注目を集めていたようでした。

第1回連絡会のご報告

2月20日(月)午後2時から連絡会が開催されました。会員みなさんに自由に意見を交換していただく場として今年から発足した連絡会ですが、第1回の今回は同じ日に開催された役員会からの報告を中心に、活発な議論が展開されました。

◆『日本語教室ガイド』の販売方法について

今年の新入会員についてはこれまで通り無料配布しますが、次回発行する改訂版からはページ増により負担が大きくなることもあるので、有料配布とする予定。

◆交流会の開催について

開催場所等の都合により交流会の日時が3月25日(土)に決定。提出された企画提案書などをもとに、内容についてさまざまなアイデアがだされました。詳細については、担当者にさらに具体的な企画を検討してもらうことになりました。

◆日本語ボランティア相談窓口と入門講座について

有楽町の生涯学習情報センターのセミナー室を月に2回まで利用できることになりました。この場所を利用しての「日本語ボランティア相談窓口・入門講座」の開催について企画提案書が提出され、多数の賛成によって了承されました。(詳細は下記)

◆TNVNシンボルマークの募集について

1月に募集したシンボルマークは応募数が少なかったため、締切りを3月末まで延長して募集を継続することになりました。

◆コーディネーター養成講座についての提案

日本語ボランティアのコーディネーター養成講座について提案があり、それに対していろいろなご意見がでました。これをもとにさらに具体案を検討し、再提出することになりました。初めての今回は、幅広いテーマで有意義な意見がだされ、活発な話し合いができました。次回は4月の第3月曜日に開催の予定。連絡会はテーマや出席者を限定せずに自由に話し合いができる場として、ひとりでも多くの方のご参加をお待ちしています。とくに、これまで参加されたことのない団体からの参加は大歓迎ですので、ぜひ一度おこしください。

「日本語ボランティア相談窓口」

「日本語ボランティア入門講座」開催のお知らせ

*日時 3月17日(金)午前9時30分～11時30分/日本語ボランティア相談

4月4日(火)午後1時～2時/日本語ボランティア相談

午後2時～4時/日本語ボランティア入門講座

4月25日(火)午後5時～6時/日本語ボランティア相談

午後6時～8時/日本語ボランティア入門講座

*場所 東京都生涯学習情報センターセミナー室(JR/地下鉄有楽町線 有楽町駅下車3分)

千代田区丸の内3-8-1 東京都丸の内庁舎4F

*会費 入門講座は1回 600円/相談は無料です

*申込み・問い合わせ 上記相談日に直接会場で受け付けます。または、ハガキに希望日・住所・氏名・電話番号をお書きの上、下記までお申込みください。

〒108 港区白金台2-27-7-702 TNVN「入門」担当 林川玲子

☎03-3473-5088



Nice To Meet You!

会員団体のプロフィール

和室でこんにちは

弥生日本語の会（文京区） 杉木良子

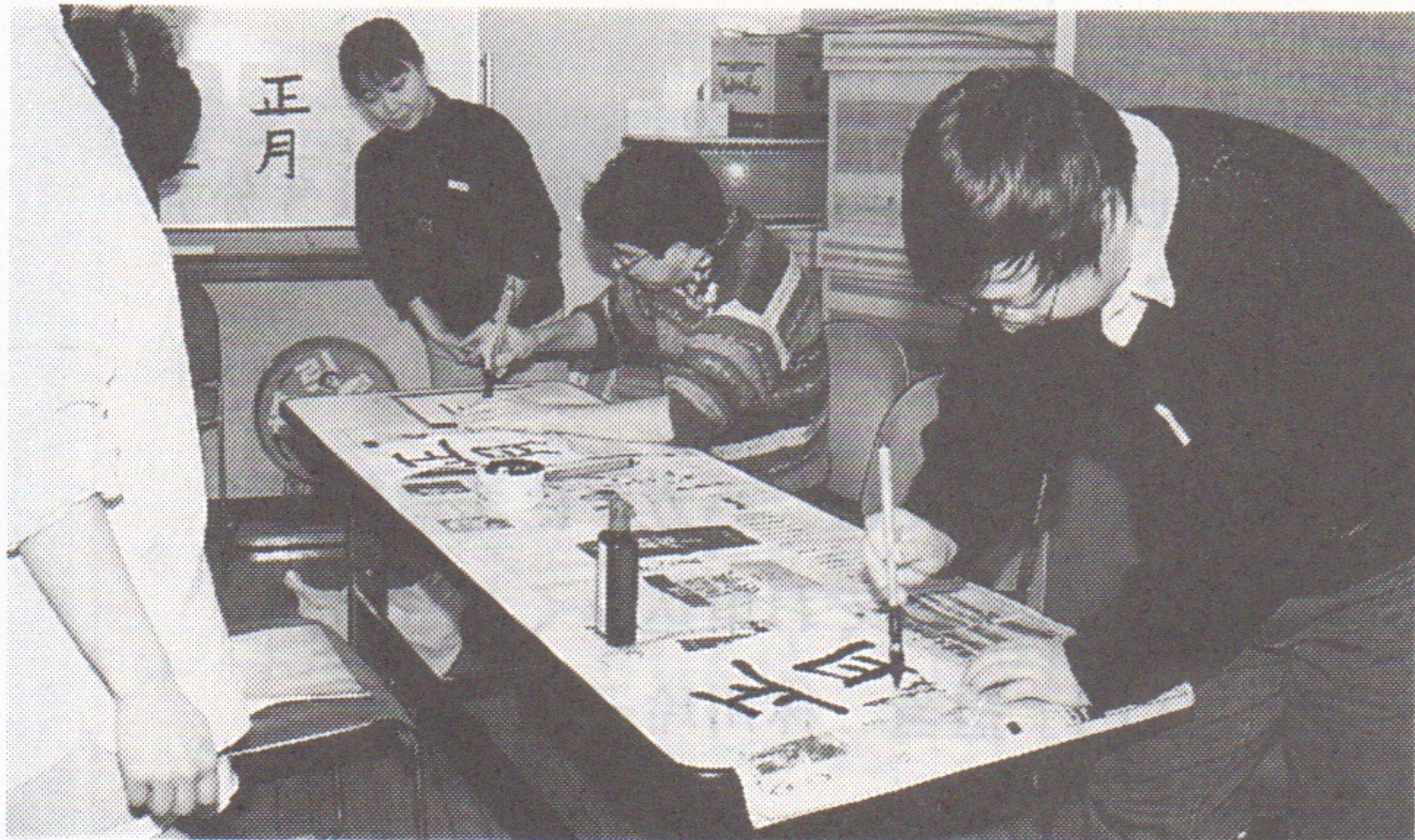
「弥生日本語の会」は、昨年5月に設立準備を開始。7・8月の試行期間を経て9月に正式発足という歴史の浅いサークルです。12名のボランティアは全員家事や育児に追われる主婦であるため、活動は週日の午前中に限られ、現在は毎週火曜日の10～12時に活動しています。学習者のほとんどが留学生というのがこの会の特色ですが、他に大使館員やそれぞれの家族なども合わせ、1月末日現在の登録者数は23名で、レベルは入門から上級までさまざまです。（出身国は中国・台湾・韓国・ベトナム・バングラディッシュ・イタリア・ドイツ）会場が区民会館の和室ですので、日本の伝統的な生活スタイルである靴を脱ぎ、畳に座り、襖や障子に囲まれての学習は学習者に好評です。8～9グループに分かれての学習ですが、15分程の休み時間をとってお茶を飲みながらのお喋りで学習者・ボランティア全員の交流を図っています。また、ボランティアは諸問題解決のための話し合いの時間を毎月1回持っています。「日本語学習を通し、異文化の相互理解を深める」ことを目的として設立されたこの会では、家庭生活・教育・食べ物（時には梅干しを実際に食べながら）などを話題にします。忘年会ではお茶を点てて全員で「お薄」を楽しみました。

アットホームな日本語教室

フレンド日本語教室（板橋区） 大野京子

「フレンド日本語教室」は日本語教授法の学習を修了した教師が、ボランティアで外国人に日本語を教えるグループです。1992年の設立以来、毎週日曜日の午前中2時間、東京都板橋区で日本語教育を続けています。

私達は単に外国人に日本語を教えるということの他にもいろいろな活動をしています。日本生活体験として伝統的な日本の文化に触れる機会を多く設け、多くの学習者が楽しみながら学んでいます。去る1月8日には「新年会」を開きました。日本の文化事伝統行事、お正月を体験しようというのがこの会の目的です。ふくわらいや書き初めに挑戦したり、おしるこを作ったべたり、それぞれの母国のお正月や冬休みの過ごし方と比較して話し合ったり、今年の抱負を発表してもらったりしました。また文化



だけでなく、日本で生活する上で必要な知識や事柄の学習として「防災会館」で地震、消化、救命、体験火災と救急の通話会話練習などの体験学習も行いました。

現在学習者数は20名。世界14カ国から日本に来ている学習者のバックグラウンドは大学教授主婦、仕事をもつ人、学生とさまざまです。決して焦らず、アットホームな雰囲気、学習者と一緒に成長していくグループ。

それが「フレンド日本語教室」です。

人間の質の向上を最終目標にする日本語教室

L. T. C. 友の会 Language Training Circle, Friendship Club (杉並区)

渡辺昌人

【目的】「L. T. C. 友の会」は(財)杉並区国際交流協会の協力会員を主軸に、主に杉並区に関連のある外国人と日本人を対象に、言語研修を通じ、相互理解と向上をめざすボランティアが運営する会員制の会です。

【会員数】現在日本人75名、外国人48名(年間を通して10名前後の移動あり)

【主な活動】◎日常生活用語を中心としたマンツーマンクラス(毎週土曜日)とグループレッスン(毎週火・木曜日)による日本語指導

◎日本語指導者への講習と育成(随時)

◎相互理解を深めるためのレクリエーション及びフリートーキングクラス(随時)

◎その他、各国語の相互学習と各国文化の総合学習(随時)

◎日本語と日本の勉強会(毎月第3金曜日)

【会費】日本人会員;年3,000円

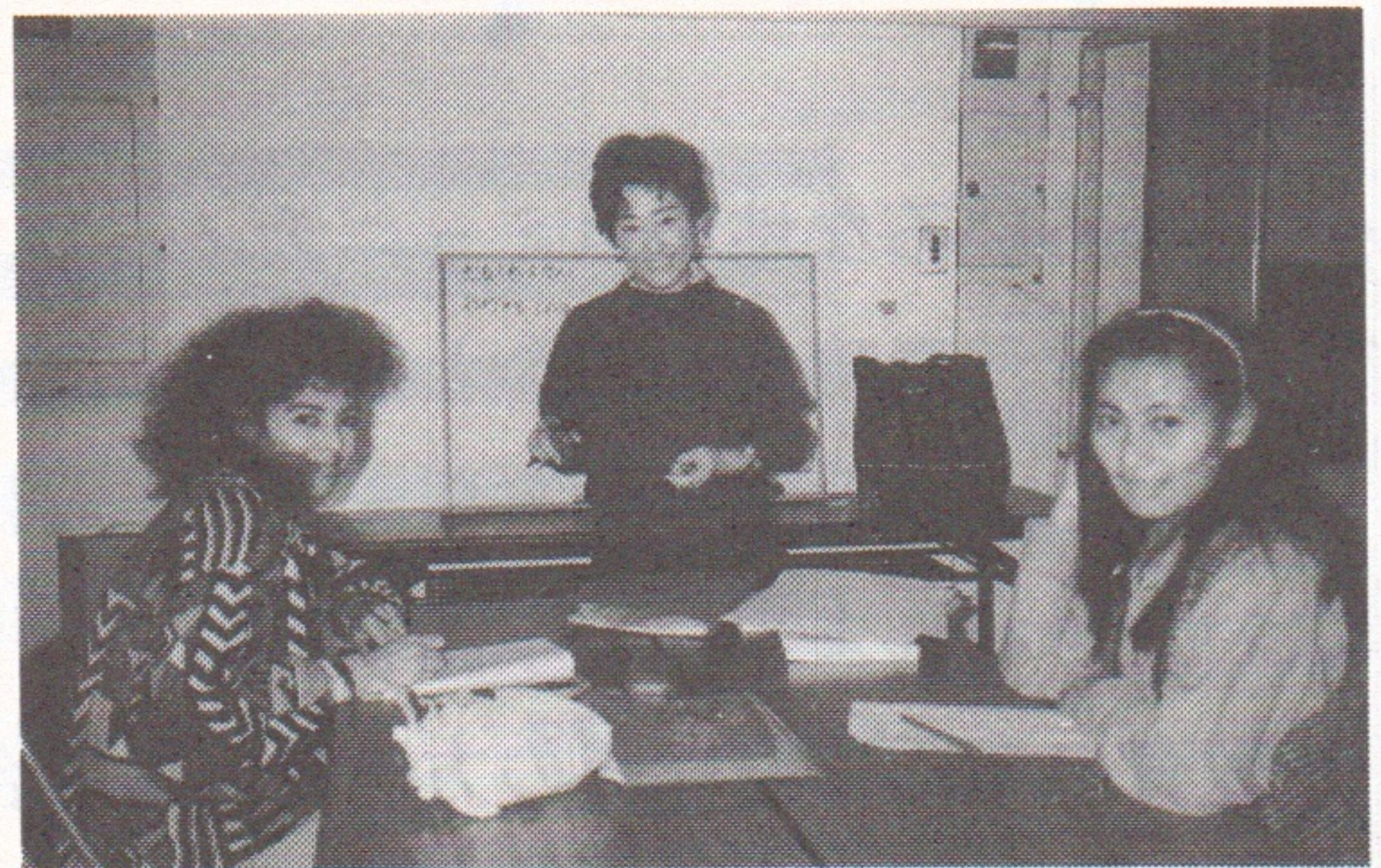
外国人会員;実費受講料

平均1回300円(マンツーマンクラス)

400円(グループレッスン)

【連絡先】〒166 杉並区阿佐谷南1-1-42-601

TEL:03-3314-9248(松田)



目的に応じた三教室

八王子国際友好クラブ・日本語グループ 中崎郁子

私達 I. F. C. 日本語グループは、公民館と市民センターに各々1クラスずつ、他に安田信託銀行の会議室を借りての1クラスと計3教室を主な活動の場としています。

公民館では「しんにほんごのきそⅠ」を学習し終わった人を対象に「しんにほんごのきそⅡ」を教える初級クラス。ここでは先生一人にボランティア4人が入り授業のサポート(学習の補助、宿題の点検、単語や漢字のコピー、スキット)をしています。

「Ⅰ・Ⅱ」を終わり、もう少しレベルアップしたい人のための中級クラスを市民センターで。

「日本語グループ・教養講座」として自主研修会を開き、ボランティア自身も「教授法の実践」を皆で勉強しています。

特別なカリキュラムをもたず学習者のやりたいこと何にでも対応するという教室を昨年は銀行の一室に開き、常時ボランティアが4~5人が活動しています。例えば、日本語検定を受けたい人やスピーチコンテストに出たい人の原稿作成の手伝い等、独自の学習態勢をとって楽しくやっています。

暮れには、国際交流パーティを企画。

132名の参加者で盛り上がり、収益金の一部をルワンダ難民基金へ送金しました。2月には立川防災館へ日本語を勉強している外国の方たちと一緒にいく計画を立てているところです。

地域における日本語学習支援のあり方について

大阪大学留学センター 山田 泉

(生)



現在、日本には、130万人以上の外国人が、地域住民として生活しています。その半数以上が、いわゆる「ニューカマー」と呼ばれる人たちです。日本社会や日本人は、これまでこれらの人たちをコミュニティの正式なメンバーとして受け入れるために、制度を整えたり、自分たちの意識を変革してきたと言えるでしょうか。

わたしは、それらの遅れによって、これら外国人はコミュニティの準メンバーという地位しか与えられず、ハンディキャップを背負った存在に甘んじてきたと考えます。ですから、近年、いろいろな地域コミュニティで、住民ボランティアによる日本語学習支援の取り組みが始められたことは、素晴らしいことだと思います。

しかし、日本語学習支援をどのように行うかについては、いまだその方法論が確立しているとは言えないと思われます。日本語教育の「専門家」と言われる人たちに学ぼうという動きがありますが、日本語教育の専門家も、その方法論は持ち合わせていないというのが実状といえるでしょう。

より教育効率を重視すべきだとか、より交流を重視すべきだとかという議論もあります。「教室型」がよいとか、「マンツーマン型」がよいとかいう議論もあります。これから、必要なら専門家も加えて、学習者と一緒にこれらの議論を深め、本当に何がよいのかを考えていけばよいと思います。ただし、わたしは、日本人住民が学習支援をするということの意義は、それら日本人側が学習者から学ぶという要素を含めるということにあると思っています。外国人を正式なコミュニティメンバーとして迎えられようように、日本社会・日本人が変わる上で、そのことだけは、どうしても必要だと思います。是非、その要素を加味した日本語学習支援の方法論を開発して欲しいと思います。

😊😊😊 日本語ボランティアQ&A 😊😊😊

日本大学講師 福田 知行

Q：私たちのグループはできてからまだ日が浅く、学習者が少ないのが悩みです。どうやって広報活動をしたらいいのでしょうか。

A：ボランティアグループが行政と何らかの関係があれば自治体の広報誌に載せてもらったり、パンフレットなどを作って役所の外国人登録窓口などに置かせてもらうという方法もありますが、すべて自分たちの手でやりたいということならばパンフレットを外国人が立ち寄りそうな場所に置いたり、後は口コミで知らせるとするのが一般的でしょう。ただ、何のために日本語ボランティアをするのかということも考える必要があります。日本語ボランティアの場合、往々にしてボランティア側の都合だけで教室運営を進めがちになりますが、その地域に住んでいる在日外国人が何を必要としているのか、あるいはその地域で日本語ボランティアは本当に必要なのかといったことまで考えてみる必要があるのではないのでしょうか。ボランティアの押し売りにならないように気を付けたいものです。

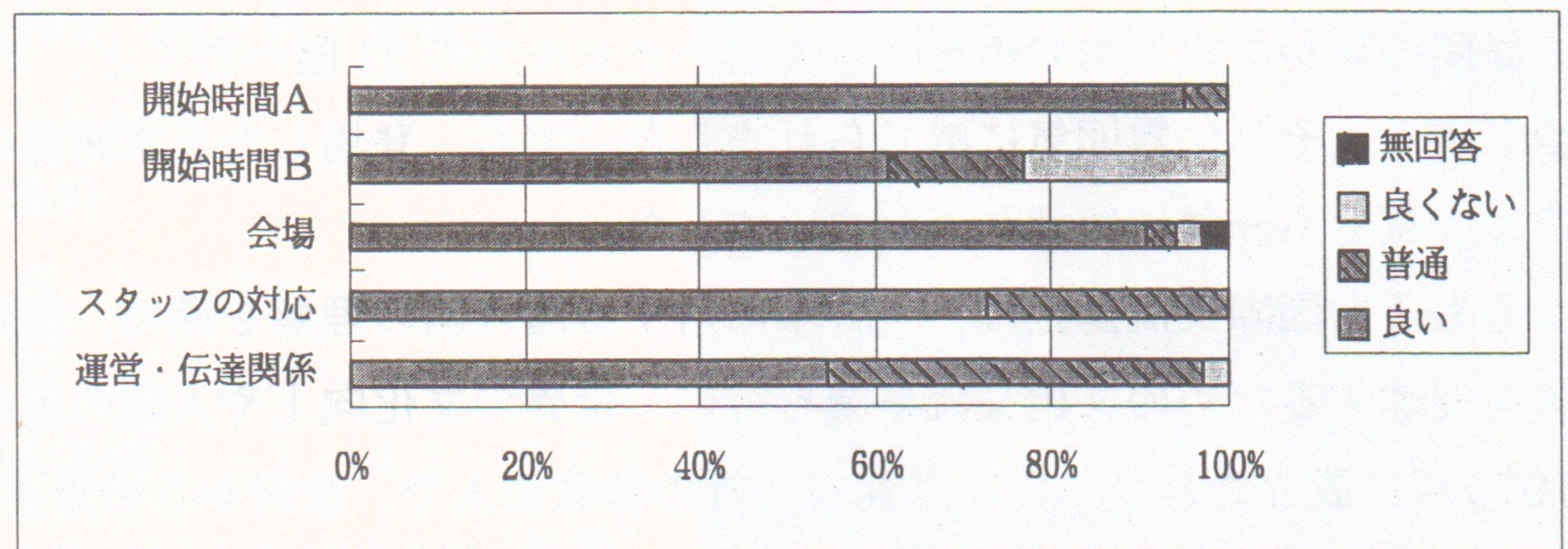
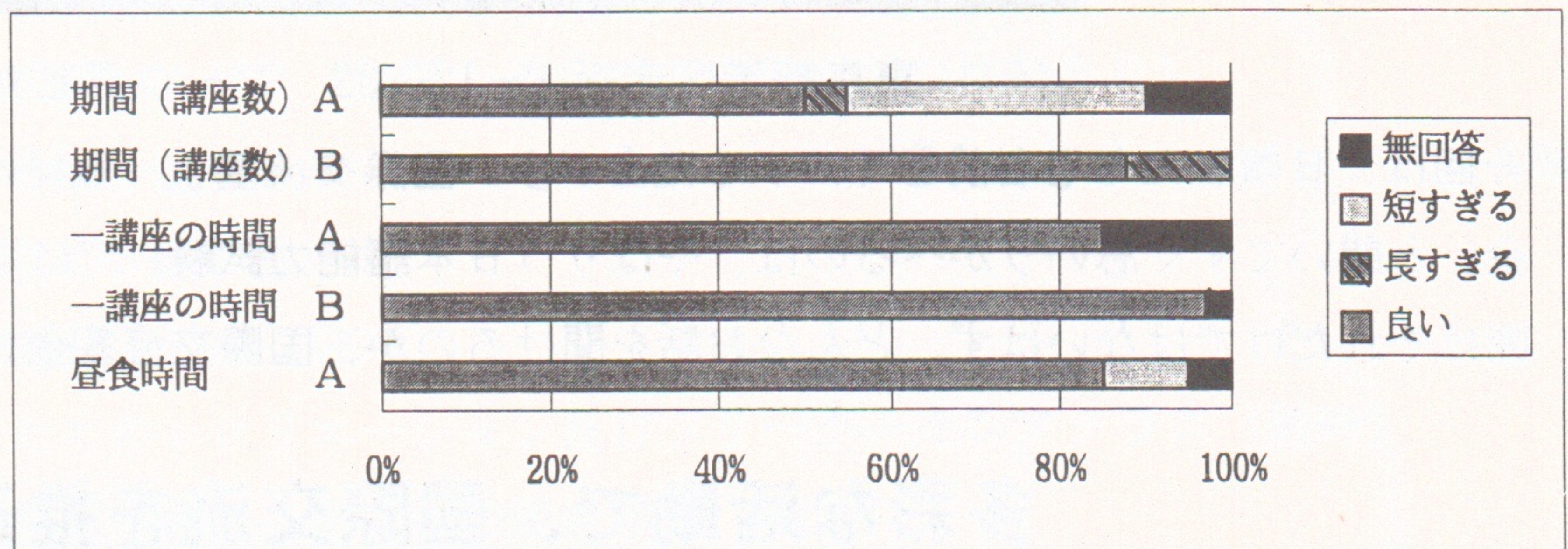


日本語ボランティア講習会 (全10回) 終了する

東京日本語ボランティア・ネットワークは、笹川平和財団 (SPF) からの委託を受け、当ネットワークとしては2回目の「日本語ボランティア講習会」(平成6年9月30日～12月2日・全10回)を実施しました。今回の講習会は、特にSPF側の意向もあり、日本語ボランティアと各分野の専門家(研究者)が、お互いに学び合うことができる場にするため、対象は各グループから1名(中心で活動している方)、計20名(A会員)に限りましました。しかし参加希望者が多いため、相互

講習終了後、受講者全員にアンケートを実施しました。

回答数; A会員(日本語教授法・相互理解講座) 20人(定員20人)
B会員(相互理解講座のみ) 13人(定員30人)



理解講座のみ更に30名(B会員)の方々を受け入れました。また、KDDの後援を得、立派な会場を使わせていただきました。実施内容は次の通りです。

受講の感想

ままだ日本語ボランティアネット 床呂 英一

今回の講習会で私は多くのものを得ました。

- (1) 日本語教育における知識
- (2) ボランティア日本語教育に対する理解と自信
- (3) ボランティア活動における人脈などです。

東京日本語ボランティア・ネットワーク、SPF、KDDの関係者の皆様に心から感謝申し上げます。勉強になったものの中でも印象に残るものは、元橋先生の講義で使われたグループ学習方式です。グループの衆知を集めるという方式もいいし、グループ代表の発表内容も大変参考になりました。

この講習会で学んだものはたくさんあり、所属団体での勉強会でも会員に紹介しましたが、私自身も今後これを活用していきたいと思っています。



講座名	講師名
ボランティアによる日本語指導法	西口 光一
日本語指導法 (A) 全3回	元橋富士子
日本語指導法 (B) 全3回	山田 泉
音声の指導法 全2回	川口 義一
まとめ → 西口光一・元橋富士子・山田 泉	
共に学び合うボランティア活動	木下 理仁
外国語体験学習(ペルシャ語)	P. PARSINEJAD
労働相談窓口からみた外国人	金子 雅臣
ボランティア日本語教室の運営	伊藤 美里
移住とストレス	桑山 紀彦
日本語ボランティアのための 異文化間心理学①	原 裕視
外国人の人権	川添 利幸
押し上げる教育	久場 良宣
中国帰国者の定着問題と支援の体制	小林悦夫
日本語ボランティアのための 異文化間心理学②	原 裕視

ZOOM IN

日本語ボランティアレポート

国際交流基金〈THE JAPAN FOUNDATION〉

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル内

今回は、日頃私たちも名前を耳にする機会が多い国際交流基金へ取材にうかがいました。「国際交流基金」と聞いてすぐ思いうかべるのは、やはり「日本語能力試験」ではないでしょうか。でも、活動の範囲はそれだけではないはず。どんなお話を聞けるのか、国際交流基金日本研究部日本語課へ、いざ出発！

多彩な活動で、国際交流を推進

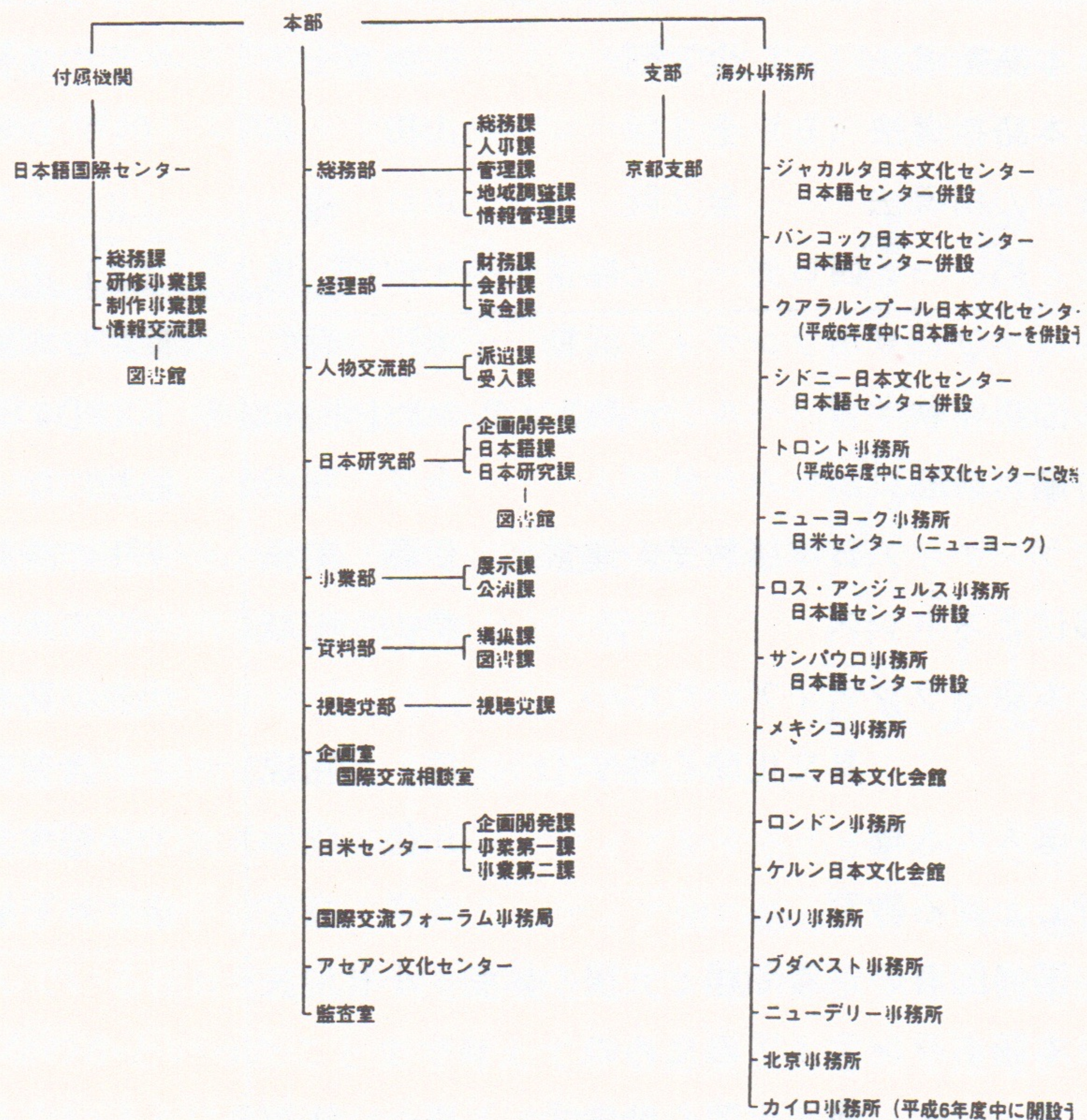
昼間の静かな六本木の街を歩いてアークヒルズの21階へ行くと、オフィスの人気は少なくなんだか少しよそよそしい雰囲気を感じられました。でも、登場した日本語課の松永さんのやさしそうな表情で、そんな気分も一気に解消してしまいました。

そもそも国際交流基金は、「日本に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進し、国際友好親善を促進するための文化交流事業を行い、世界の文化向上や人類の福祉に貢献すること」を目的として、1972年に設立されました。外務省所管の特殊法人で、政府からの資本金と補助金、民間からの出資金、寄付金などで運営されています。

国際交流基金の活動分野は幅広く、海外への人の派遣や海外からの受入れを担当する人物交流部、海外での日本語教育を援助する日本語課などがある日本研究部、さまざまな展示会や公演などの企画・運営をする事業部、さらに資料部や視聴覚部などのセクションに分かれています。そして、海外にも17か所の事務所と5か所の日本語センターを開設しています。

この日お話をうかがった松永さんも昨年までローマ日本文化会館に4年間勤務していたということで、「イタリアでは書類ひとつ提出してもらうのに期日までに出不せなかったり、なかなか日本での仕事のようにはゆきません。そういうことはイタリアには限らず、日本は特別なんだということが外から見てよくわかりました」と、苦勞を語っていました。

さて、私たちにとって関心の深い「日本語」ですが、国際交流基金では日本語能力試験の運営以外にも、海外での日本語教育を援助するための日本語教育専門家の派遣、また海外から日本語教育に携わる人々の招聘研修、教授法の研究や教材の開発、海外での日本語教育状況調査など、幅広い活動を行なっています。

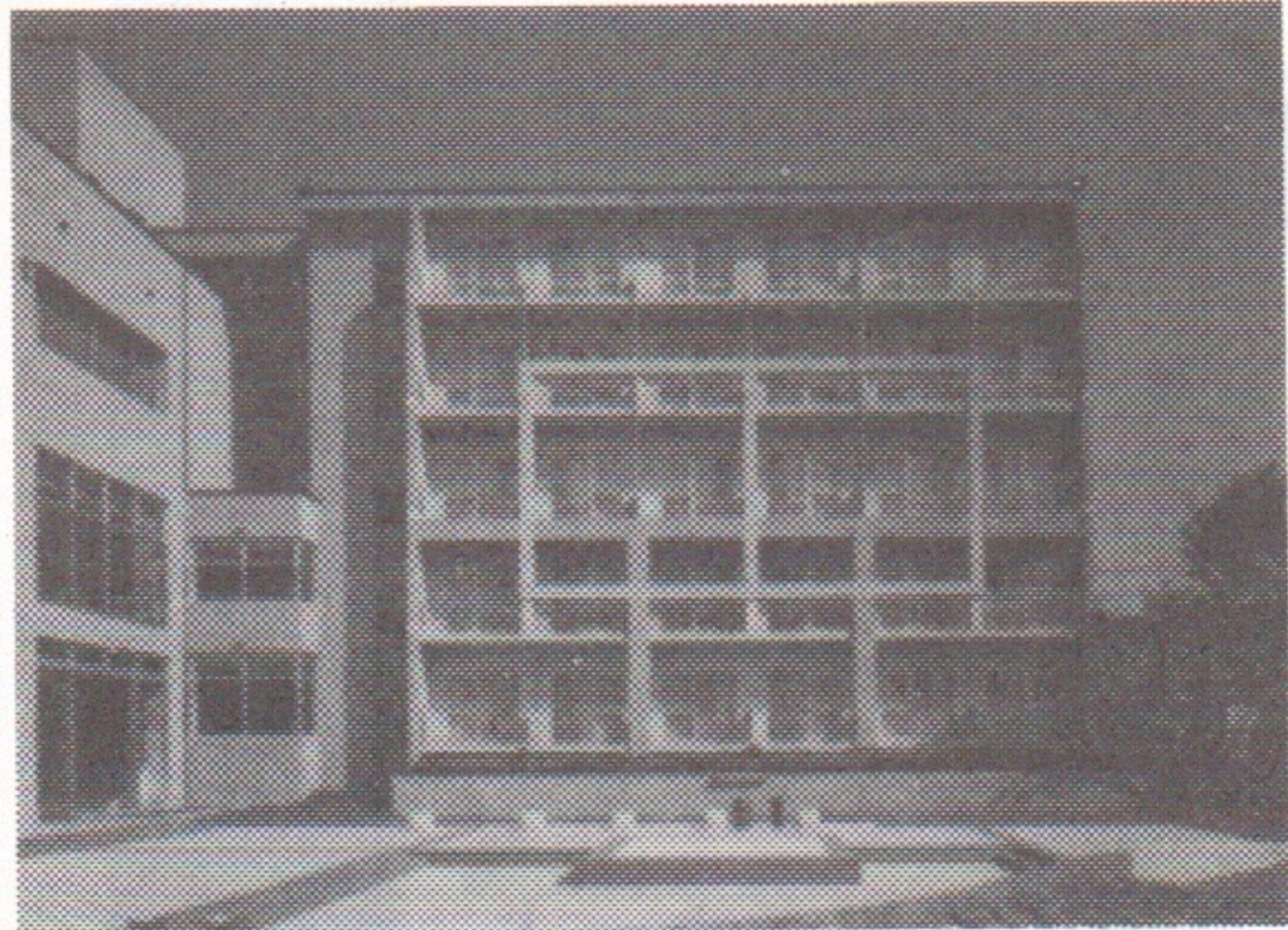


国際交流基金の組織(平成6年10月現在)

まず海外への日本語教師の派遣について質問してみました。

Q. 海外へ派遣される日本語教師としては、どのような方が派遣されるのですか？

A. 海外への派遣については年度計画や予算を考慮して決定されますがその他にもいくつかの条件があります。



①これまで派遣された経験者を別の場所へ再度派遣する。

②新たに募集する際には、一般公募を行う。士課程修了が条件。とくに、修士課程修了者が優先される。(直接日本ただしその場合は、2年以上の日本語教育経験者、もしくは日本語教育の修語を教えるだけではなく、日本語教育に関わる人々の教育に関わる人々の教育・養成などにも携わるため、やはり修士は必要ということ。さすがに誰でも行けるわけではないと納得しました。

Q. 国際交流基金から日本語教師を派遣する場合、派遣先はどのように決まるのですか？

A. 海外へ派遣する場合には受け入れ先からの要請が第一となりますが、要請されたところすべてに派遣していたのでは予算が足りません。ですから例えばそのエリアの中心となる都市で、そこから周辺地域へ日本語教育の波及が期待できるところを選んで派遣しています。

また、現地で日本語教育に携わる外国人教師を日本へ招聘して研修等を実施するための施設として、89年に開設された浦和の日本語国際センターがあります。ここには宿泊のためのドミトリーをはじめ、カフェテリア、レクリエーション室、図書室、自習室、茶道や華道など日本文化の学習にも利用できる和室など、さまざまな設備が整っています。これまでに短期から長期までさまざまなプログラムが実施され、世界各国から数多くの研修生が来日しました。(*)

1970年代には5万人だった世界の日本語学習者数は、90年代に入って100万人と飛躍的に増大しています。これは日本語教育の中心がこれまでの大学などの高等教育レベルから、中等教育レベルへと移り、学習者の裾野が拡大した結果によるものです。だからこそ、「中等レベルでの日本語熱が高い現在どんなことができるのか」ということが、国際交流基金の新たな課題となっているようです。

またこの他にも、国際交流活動を行っている団体や地方自治体などに情報を提供し、相談の窓口となっている国際交流相談室、文化交流事業の機会拡大のために94年に開設された国際交流フォーラムなど、国際交流基金では文字通り国際交流のための多彩な活動を行っています。

これを読んで国際交流基金の活動に興味をもたれた方には、アジア諸国の文化を紹介しているアセアン文化センター(赤坂ツインタワービル1階)を訪れることをお勧めします。各種の展覧会や公演が催されていたり、本・ビデオ・音楽テープなどの閲覧ができるライブラリーがあったり、国際交流基金の活動の一端を知ることができるでしょう。



(写真提供・国際交流基金)

*この日本語国際センターに興味のある方が多くいらっしゃる場合は、当ネットワークでも見学会を企画するつもりです。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

★国際交流基金で90年に実施した海外日本語教育機関調査の結果をまとめた「海外の日本語教育の現状」をいただきました。これには世界各地の日本語教育に関するデータや教育機関の資料が掲載されています。ネットワーク事務局に保管してありますので、興味のある方はご利用ください。

Network Information

より多くの賛同者カードの記入にご協力を！

KDDによるサポートプログラム

昨年11月から、KDD国際電信電話（株）による東京日本語ボランティア・ネットワークのサポートプログラムがスタートしました。これは、当ネットワークの活動に賛同する方に賛同者カードを提出していただければ、その登録した電話から利用した001の国際電話料金の数パーセントを当ネットワークの活動資金としてKDDが援助して下さるといふものです。

すでに会員のみなさんのご協力のおかげで、200通近くの賛同者カードが届いていますが、会員数からしてみればまだ賛同者数が不十分といえます。この機会に国際電話を利用する友人・知人などに積極的に呼びかけていただいて、多数の賛同者を募っていただきたいと思ひます。なお、先日お送りした賛同者カードが足りなくなった場合は、事務局までハガキかファックスでお知らせいただければ、こちらからお送りいたします。

第3回ネットワーク交流会のお知らせ

95年に入って初めてのネットワーク交流会を3月25日（土曜日）に、飯田橋のセントラルプラザ10階会議室にて開催することになりました。

内容の詳細等については後日あらためてお知らせいたしますが、今回の交流会は外国人学習者の方もいっしょに参加していただけるものになる予定です。どうぞご期待ください。

『日本語教室ガイド』の申し込みはハガキで

昨年11月に当ネットワークから発行された『東京ボランティア日本語教室ガイド』は、すでに会員のみなさんのお手許にも届いていることと思ひます。発行以来、読売新聞・日本経済新聞・アルク刊『月刊日本語』・THE JAPAN TIMESなどの紙面で紹介され、大きな反響がありました。その結果、初版1000部のうちの大部分をすでに販売したため、今回初版の誤字等を訂正して500部を増刷しました。新たに購入をご希望の場合は、ハガキでネットワーク事務局ガイド係（住所は下記）までお申し込みください。折り返し『日本語ガイド』と振り込み用紙をお送りしますので、代金1000円（実費700円と郵送料）をお振り込みください。

なお、『日本語ガイド』の改訂版の発行は95年11月の予定です。団体会員のみなさんには今後アンケート等にお答えいただくことになると思ひますので、よろしくご協力をお願いいたします。

TNVNシンボルマークを募集中

以前お知らせしたように当ネットワークのシンボルマークを募集しています。現在のところ応募数が少ないため、締め切りを3月末まで延長することになりました。ネットワーク活動を表現したシンボルマーク、もしくは『TNVN』をデザイン化したロゴマークなど、自由な発想でデザインして、右記までご応募下さい。

連絡先

〒162 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・センター気付
東京日本語ボランティア・
ネットワーク事務局
FAX/03-3235-0050

Bulletin Board

ボランティアのつどい『はじめてのボランティア活動』

東京都教育委員会の主催によるボランティアのつどい『はじめてのボランティア活動』が開催されます。各種のボランティア活動の実践発表と講演が行われ、実践発表では日本語ボランティア団体の事例も報告されます。参加ご希望の方は下記まで電話かハガキでお申込みください。

* 日時/95年3月12日(日) 午後1時45分～4時30分

* 会場/都民ホール(都庁都議会議事堂1階)

* 講演/「豊かな世界 広がるボランティア活動」木原孝久さん(福祉教育研究会主宰)

* 参加費/無料

* 問い合わせ・申込み/東京都教育庁生涯学習部社会教育課社会教育事業係

〒163-01新宿区西新宿2-8-1 ☎03-5321-1111(代) 内線54-441,442

外国人学生等救援センター神戸支部が開設

阪神・淡路大震災で被災した外国人を支援するために、『外国人学生等救援センター神戸支部』が開設されました。下記の場所で、外国人の方からの生活と心の相談をお受けしています。

* 場所/神戸YWCA学院専門学校内 神戸市中央区上筒井通り1-1-20

* 電話番号/030-814-0699

* 開設時間/土曜日 午後3時～8時

日曜日 午前9時～午後3時

また、長期的な支援活動を目指し、いっしょに活動するボランティアの募集と、あわせて資金援助もお願いしています。

* 募金口座/さくら銀行 板橋中台出張所 普通6357323

「阪神大震災外国人学生救援募金」

* 問い合わせ/〒156 東京都世田谷区松原1-56-23-301 宮本 典以子

TEL/FAX;03-3327-0432

「長野県内の日本語教室マップ」が完成

上田女子短期大学日本語教育研究会によって「長野県内の日本語教室マップ」がまとめられました。これは、長野県内の日本語学校やボランティア日本語教室などの所在地、開講時間、受講料、授業内容などをまとめたもので、日本語版、英語版、中国語版、ポルトガル語版、ハンダール版、タイ語版があります。

当ネットワーク事務局にて保管していますので、興味のある方はぜひご覧ください。

東京都の外国語による電話相談窓口

東京都の情報連絡室都民相談課では、外国語による電話相談を受けています。日常の暮らしのなかで困ったこと、知りたいことに対してアドバイスする「外国人相談」を開設しています。

◆英語 (月～金) ☎03-5320-7744

◆フランス語 (木) ☎03-5320-7755

※受付時間は

◆中国語 (火・金) ☎03-5320-7766

午前9時30分～12時、

◆ハンダール (水) ☎03-5320-7700

午後1時～4時まで

◆スペイン語 (木) ☎03-5320-7330

SPECIAL THANKS TO...

ありがとうございました...

- KDD国際電信電話様 : 今回からニュースレターを印刷できることになりました。
- 国際交流基金様 : 200分の取材に快く応じていただきました。
- 加藤千恵子様、渡部央子様 : ネットワークの活動資金にご寄付をいただきました。
- 中川画太様 : ニュースレターのイラストを描いていただきました。

FROM EDITORS

登山電車9つもりか...
発車した途端に?
スピード調整係も再認識
して再び打。N.T.

気麻が...の長ろ、才気のうすま...
雲の中に居た...この中から何を
(歩み)をどうか目申試案申といろ
(彦)と...で... M.W.

最近思...
阪神大震災の被災者の方々の勇気、精神力の強...と感動して... M.Y.

「ボラタイ」という言葉の意味がわからなくなっ今日この頃、下じから流れて
くる声に耳を傾むけ必...い...。11つにまたら...か...の...か...ら...
インフルエンガに苦しむ人々と
いっしにいても余く平気な
私...何? Fuji


ネットワークニュース
あ...か...、あ...か...せ
して、申し分ない。
あ...か...いて...
楽しみ... Allen

今年は何事か...
か...は...
し...も...
「日本語ネットワーク」...
を...
い...
(R.H.)

(パーキング)
フー、今や...と地域の
ニュースレターの原稿が...
は上...た...
さあ、今度はネットワーク
ニュースだ! (B)

“NETWORK”を日本語にすると
“絆”かな...と思う今日この頃です。
KYOKO

編集後記

活動が2年目に入った今回からKDDのご協力でニュースレターを印刷できることになり、きれいな写真をご覧いただけることになりました。すべてが試行錯誤だった1年目と比べるとネットワークの活動もかなりスムーズになったようです。皆様のご意見をお待ちしています。 

「最近帰るといつもパソコンをママに占領されているから...」
と新しい機種の研究をしている夫。ド、ドキッ! 